

釧路市下水道経営計画

(2022年度～2031年度)

釧路市

目 次

1	鉏路市下水道経営計画の策定にあたって.....	1
2	事業概要	2
2.1	事業の現況（2020年度（令和2年度）末現在）	2
2.2	これまでの主な経営健全化の取り組み.....	5
2.3	民間活力の活用等.....	6
3	下水道事業経営上の主な課題と事業環境.....	7
3.1	処理区域内人口の予測.....	8
3.2	有収水量の予測.....	8
3.3	使用料収入の見通し.....	9
3.4	施設の見通し.....	9
3.5	組織の見通し.....	10
4	経営の基本方針と主要事業.....	12
	施策目標 1 下水道施設の適正な維持管理.....	15
	施策目標 2 安全で快適な水環境の保全.....	17
	施策目標 3 雨に負けない下水道.....	18
	施策目標 4 災害に負けない下水道.....	19
	施策目標 5 下水道事業の健全な経営.....	20
	施策目標 6 資源循環の推進、施設の有効活用.....	22
5	財政収支見通し.....	24
5.1	収支計画の策定に当たっての説明.....	24

5.2 収支計画に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要.....	25
6 施策の実現に向けて.....	26
6.1 施策の実現と進捗管理（事後検証、改定等に関する事項）.....	26
別紙1 経営比較分析表（2020年度（令和2年度）決算）.....	27
別紙2 投資・財政計画（収支計画）.....	29

1 釧路市下水道経営計画の策定にあたって

釧路市では、前下水道ビジョンの計画期間が2021年度（令和3年度）で終了するにあたり、これまでの下水道事業の施策や取り組みを評価分析し、市民生活に必要なライフラインを次の世代に確実に引き継いでいくことを主眼とした、『次世代へつなぐ持続可能な水循環をささえる下水道』を基本理念とする、新たな「釧路市下水道ビジョン（2022年度～2031年度）」（以下「ビジョン」という。）を策定することとしました。

釧路市下水道ビジョン

基本理念「次世代へつなぐ持続可能な水循環をささえる下水道」

- 施策目標 1 下水道施設の適正な維持管理
- 施策目標 2 安全で快適な水環境の保全
- 施策目標 3 雨に負けない下水道
- 施策目標 4 災害に負けない下水道
- 施策目標 5 下水道事業の健全な経営
- 施策目標 6 資源循環の推進、施設の有効活用

下水道事業は、安全・安心で快適かつ衛生的な生活環境の提供、公共用水域の保全、浸水被害の軽減などの役割を果たす重要なライフラインです。「釧路市下水道経営計画〔2022年度～2031年度〕」（以下「経営計画」という。）は、ビジョンに掲げた施策目標の実現を目指す取り組みを進めながら、健全な財政運営との両立を図り、持続可能な事業経営を進めていくための具体的な実施計画です。

1955年（昭和30年）の下水道事業着手以来、都市の発展と人口の増加に合わせ処理区域の拡大を続け、下水道処理人口普及率は98.5%（2020年度（令和2年度）末）に達しています。

今後、持続的に安定したサービスを提供していくために、将来の見通しを明らかにした上で、経営基盤強化に取り組むことが重要であり、ビジョンに掲げた施策目標の実現に向けて、着実な事業の実施と経営の健全化に取り組んでまいります。

なお、2021年（令和3年）3月に策定した「釧路市下水道事業経営戦略」については、ビジョン及び経営計画に内包することとします。

2 事業概要

下水道事業は、積極的な建設投資を行ってきたことにより、2020年度（令和2年度）末の下水道処理人口普及率は98.5%に達し、汚水施設の整備は概ね完了しています。

公衆衛生の向上と都市の浸水被害を軽減するため、1955年（昭和30年）に古川処理区で事業認可を受け着手しました。その後、都市の発展と人口の増加にともない白樺・大楽毛処理区へ拡大をしました。阿寒湖畔処理区は1986年（昭和61年）、阿寒処理区は1996年（平成8年）、音別処理区は2001年（平成13年）に処理を開始し、現在では6処理区に6つの下水処理場と10箇所の中継ポンプ場を抱えています。

2.1 事業の現況（2020年度（令和2年度）末現在）

(1) 施設

	公共下水道事業	特定環境保全公共下水道事業
提供開始年度	1974（昭和49）年度	1986（昭和61）年度
法適（全部・一部） 非適の区分	法適（全部）	
処理区域内 人口密度	37.6人/ha	12.9人/ha
流域下水道への 接続の有無	無し	
処理区数	3 古川処理区 白樺処理区 大楽毛処理区	3 阿寒処理区 阿寒湖畔処理区 音別処理区
処理場数	3 古川下水終末処理場 白樺下水終末処理場 大楽毛下水終末処理場	3 阿寒下水終末処理場 阿寒湖畔下水終末処理場 音別浄化センター
広域化・共同化 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1978年（昭和53年）より、釧路町セチリ太地区の汚水を古川下水終末処理場で処理しており、現在は別保地区、遠矢地区の汚水も同様に処理しています。 ・汚水処理施設共同整備事業（MICS）として、大楽毛下水終末処理場に汚泥等受入施設を建設し、2013年度（平成25年度）より市内及び近隣町村（釧路町・白糠町・鶴居村）より収集されるし尿及び浄化槽汚泥等を集約し処理しています。 	

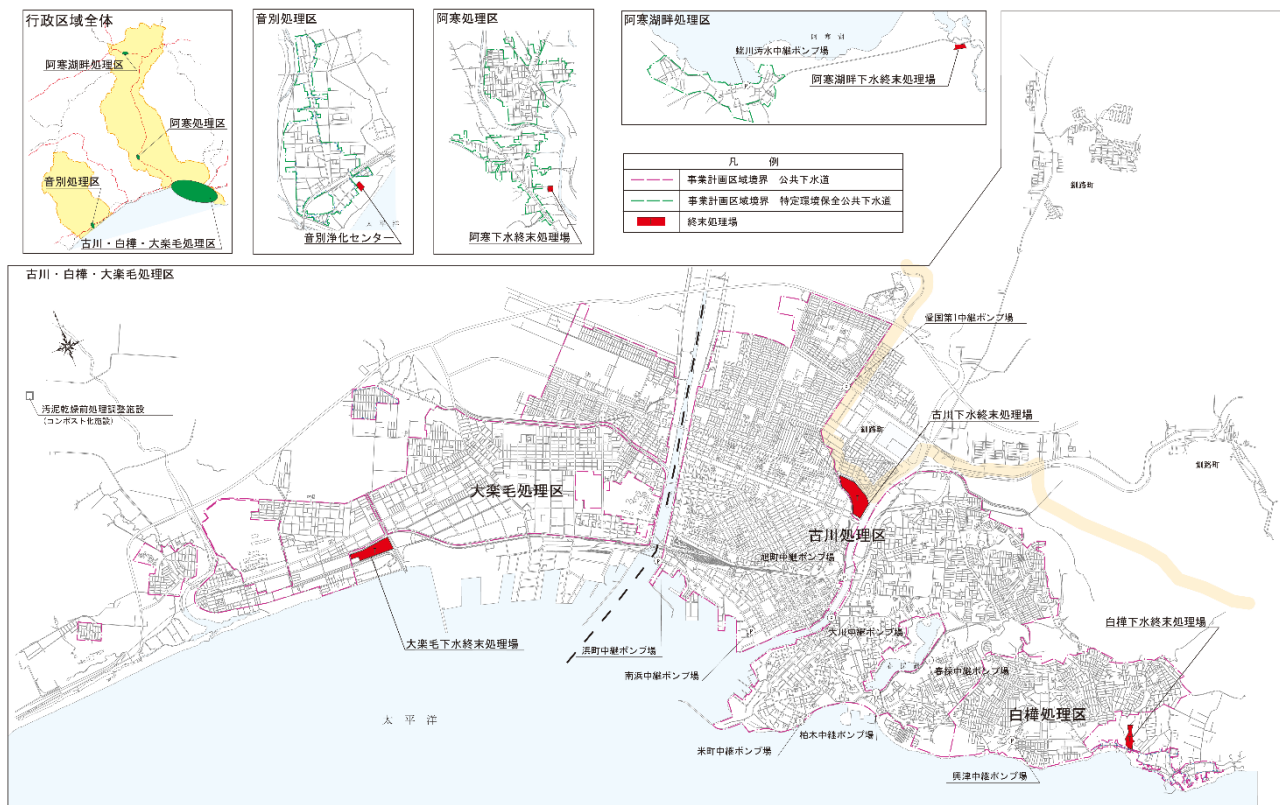


図 1 釧路市下水道事業計画区域

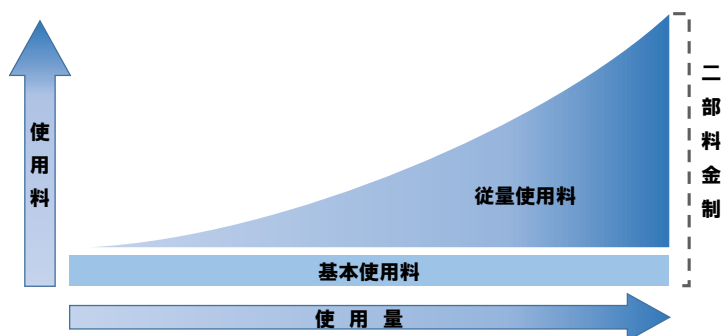
(2) 料金

ア 使用料体系の概要・考え方

下水道使用料は「基本使用料」と「従量使用料」で構成されています。

基本使用料とは、使用量の有無に係わりなく賦課されるもので、定額となっています。

従量使用料とは、使用量に応じて賦課されるもので、使用量が多くなるほど単価が高くなる逡増方式となっています。



イ 料金改定

下水道使用料は、近年の人口減少などによる落ち込みが続いています。下水道事業は、当面の間は資金剰余が見込まれるものの、将来の経営状況は厳しさを増すものと想定されます。一方で水道事業は、2022年度（令和4年度）から料金の値上げをしなければ資金不足が生じる、非常に厳しい経営状況となっていたことから、コロナ禍における厳しい社会・経済状況を考慮し、家事用の水道料金と下水道使用料の合計額が改定前の額を超えないこととするなど、できる限り市民に新たな負担を生じさせないことを基本として、2022年（令和4年）4月から、水道料金は2.9%の値上げ、下水道使用料は2.5%の値下げをすることとしました。

表 1 使用料金表

種 別	1 か月の使用料		
	汚水排除量	使用料(税込)	
		処理区域	未処理区域
基本使用料	—	1,520 円	656 円
従量使用料 (1 m ³ につき)	8 m ³ まで	16.00 円	7.00 円
	9~20 m ³ まで	228.44 円	99.74 円
	21~50 m ³ まで	258.47 円	109.40 円
	51~100 m ³ まで	299.23 円	125.48 円
	101~500 m ³ まで	337.84 円	142.64 円
	501~1,000 m ³ まで	363.58 円	156.59 円
	1,001 m ³ 以上	381.81 円	164.09 円
公衆浴場入浴料金の統制額の指定等に関する省令（昭和32年厚生省令第38号）の適用を受ける浴場については、1 m ³ につき19.31円とする。			
阿寒湖温泉 地区で温泉水の汚水に係る使用料	1,000 m ³ 未満	使用料 1 m ³ につき	10.82 円
	1,000 m ³ 以上	100 m ³ まで	20,345.33 円
		100 m ³ 超 1 m ³ につき	10.82 円

※2022年（令和4年）4月1日施行

(3) 組織

6課8担当の計54名となっています。特に41名の技術職については、技術継承の観点からも年齢構成や経験年数のバランスを勘案した人員配置に努めています。

表 2 組織体制（2022年（令和4年）4月）

総務課	総務担当：3
経営企画課	経営企画担当：4
下水道建設管理課	課長：1 計画担当：7 建設担当：7 管理担当：16
下水道施設課	課長：1 管理指導担当：11
阿寒上下水道課	上下水道担当：3
音別上下水道課	上下水道担当：1

表 3 職員数・職種・年齢構成等（2020年度（令和2年度）末）

職種	総務課		経営企画課		サービス課		下水道建設管理課		下水道施設課		阿寒上下水道課		音別上下水道課		合計
	事務	事務	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	
60歳～	0人	0人	0人	0人	1人	3人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	7人
50～59歳	0人	0人	0人	0人	0人	5人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	6人
40～49歳	1人	0人	1人	1人	1人	9人	0人	2人	0人	1人	0人	1人	0人	1人	17人
30～39歳	0人	1人	0人	0人	1人	4人	0人	4人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	12人
～29歳	0人	3人	1人	0人	1人	3人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	10人
合計	1人	4人	2人	1人	4人	24人	1人	11人	1人	2人	0人	1人	0人	52人	

2.2 これまでの主な経営健全化の取り組み

これまで経営健全化の取り組みとして、債権回収業務の委託による未収金対策強化、下水処理場等運転管理の包括的民間委託といった民間事業者の技術を活用する手法の導入、さらには業務体制の見直しにより2005年（平成17年）の市町村合併以降、職員数を10名削減するなど、コスト縮減に努めながら経営の健全化を図ってきたところです。

今後も、減少が見込まれる水需要に対し、適正な施設規模となるようダウンサイジングを検討するなど、様々な方策により経費節減への取り組みを進めます。

2.3 民間活力の活用等

(1) 民間活用の状況

ア 民間委託（包括的民間委託を含む）

民間事業者の創意工夫を事業に活かすため、2004年（平成16年）の国土交通省通知「下水処理場等の維持管理における包括的民間委託の推進について」を受けて検討の後、2008年度（平成20年度）から順次包括的民間委託を実施しています。

【委託処理場】古川下水終末処理場、白樺下水終末処理場、大楽毛下水終末処理場、阿寒下水終末処理場、阿寒湖畔下水終末処理場、音別浄化センター

(2) 資産活用の状況

ア エネルギー利用（下水熱・下水汚泥・発電等）

古川下水終末処理場及び大楽毛下水終末処理場の消化設備から発生する消化ガスを、場内暖房、消化槽の加温及び汚泥乾燥機の燃料として活用することにより、燃料使用量の削減を図っています。

また、2013年度（平成25年度）から、大楽毛下水終末処理場において近隣町村のし尿及び浄化槽汚泥等を受入している影響で、消化ガス発生量が増加し余剰分が発生していることから、2022年度（令和4年度）からの消化ガス発電事業導入に向けた取組を行っています。

3 下水道事業経営上の主な課題と事業環境

本市は、道内他都市と比べて立ち遅れていた下水道の普及率向上に対する多くの市民要望を受け、1970年代以降に積極的な建設投資を行い、普及率を飛躍的に向上することができました。

しかしながら、その財源の多くを企業債（市の借金）で調達したことから、後年次に多額の元利償還金（借金の返済）として経営を圧迫することとなりました。現在は償還を進めており、2020年度（令和2年度）末で約58,000千円の資金不足額（不良債務）となっています。

資金不足は2021年度（令和3年度）に解消する見通しとなりましたが、老朽化した管路や施設の更新に多額の資金需要が見込まれており、引き続き厳しい経営状況となります。

なお、公営企業決算状況調査（決算統計）における、2020年度（令和2年度）決算状況に基づく経営比較分析は、27～28ページの別紙1のとおりです。

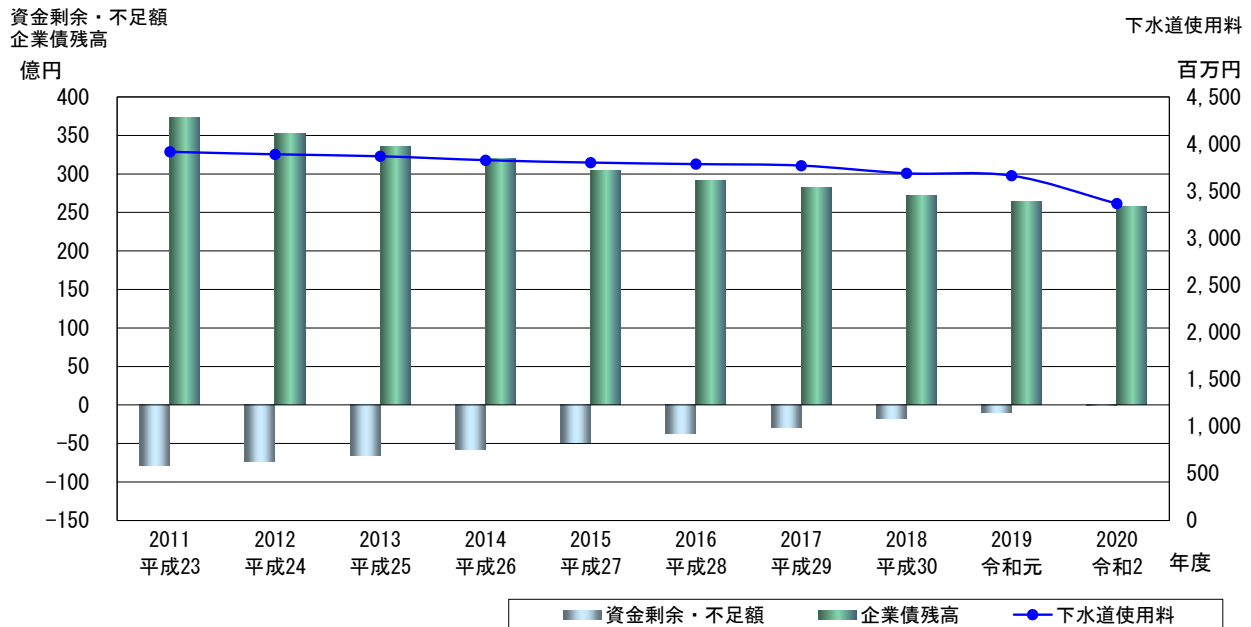


図 2 財政状況の推移

3.1 処理区域内人口の予測

行政区域内人口は市勢の発展とともに増加を続けてきましたが、1984年度（昭和59年度）をピークに減少が続いており、2020年度（令和2年度）末現在において、行政区域内人口は164,298人、処理区域内人口は161,887人となっています。

処理区域内人口の予測は、2018年度（平成30年度）「国立社会保障・人口問題研究所」による将来人口を基に推計した結果、2031年度（令和13年度）には、2020年度（令和2年度）と比較し概ね21,000人の減少が予測されています。（図4）

下水道事業において、人口の減少等は使用料収入の減少に直結する深刻な問題です。一方で、老朽化施設更新のための膨大な設備投資を行わなければならない極めて厳しい経営環境が続くと想定しています。

3.2 有収水量の予測

有収水量は、一般家庭が6割、事業者が4割と、一般家庭が全体の半分以上を占めています。有収水量の予測については、一般家庭については処理区域内人口の減少と節水型機器の普及により、また事業者においては業種別に分け過去の実績に基づき推計を行った結果、2031年度（令和13年度）には2020年度（令和2年度）と比較し概ね1割の減少が予測されています。

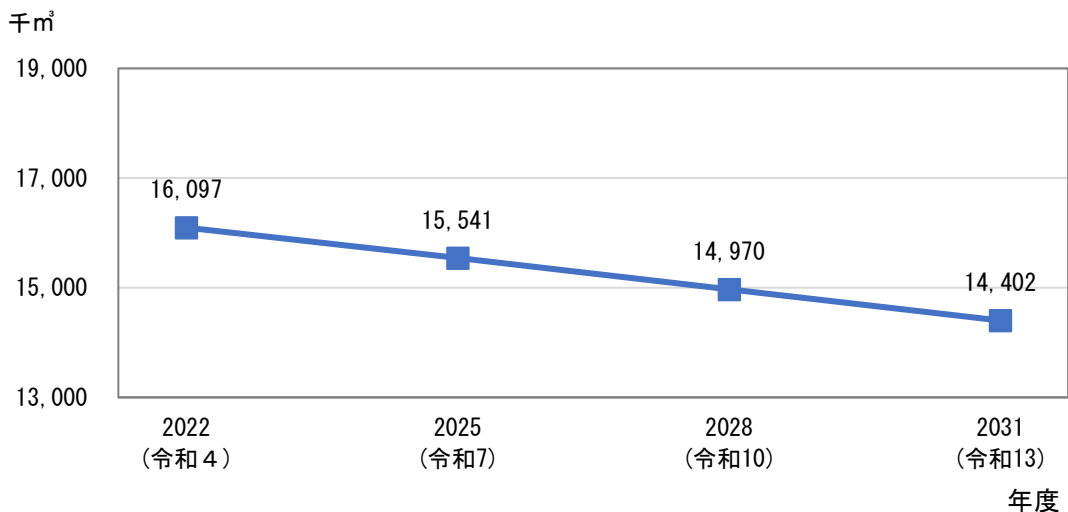


図3 有収水量の見通し

3.3 使用料収入の見通し

使用料収入については、人口減少や節水意識の高まりなどにより水量の減少傾向が続くものと想定し、2031年度（令和13年度）には2020年度（令和2年度）と比較して約5億6千万円の減収となる見通しです。

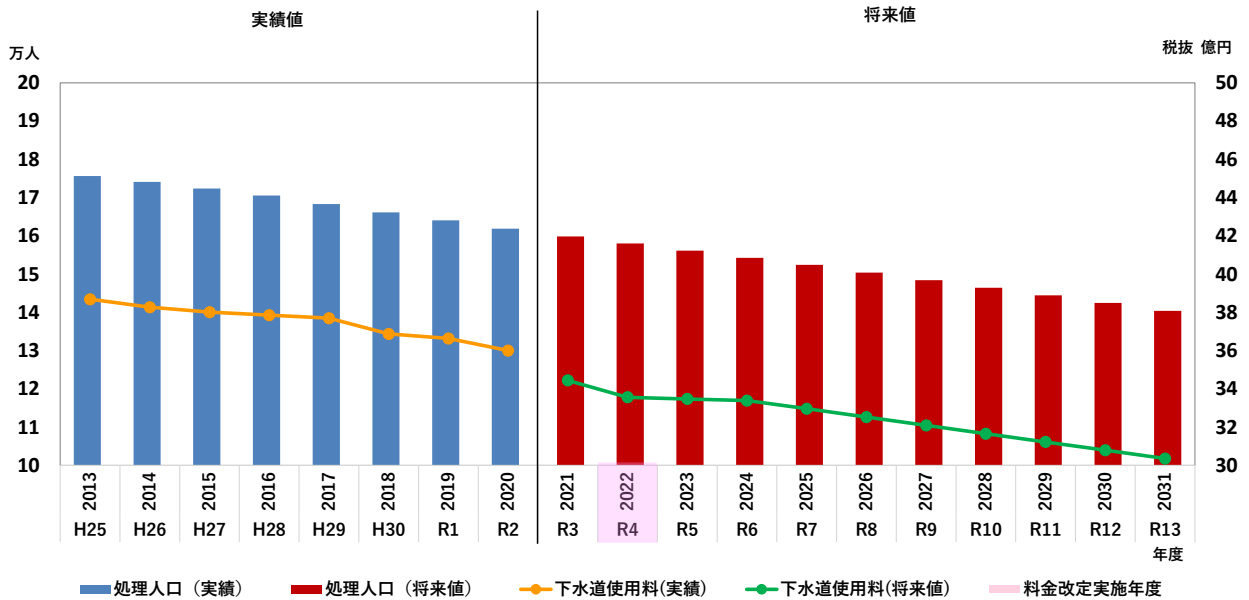


図 4 処理人口と下水道使用料の推移

3.4 施設の見通し

下水道事業は1955年（昭和30年）から整備を開始しており、6つの下水処理場と10箇所の中継ポンプ場、1,479kmの管路を抱えておりますが、近年老朽化が進んできている状況にあります。

処理場やポンプ場等については、機能の維持や事故を未然に防止するため、施設の日常点検・定期点検から得られる情報を基に必要な修繕等を行い、延命化を図るとともに、緊急度、重要度、優先度などを総合的に判断し更新事業を実施していきます。

管路については、今後50年を経過する老朽管が急増することから、2022年度（令和4年度）より、健全度を把握するための老朽管調査を拡充することとしており、その結果を元に、事業費の平準化を図った上で更新事業を進めていきます。また必要に応じて部分的な修繕を行うことで、延命化を図っていきます。

3.5 組織の見通し

釧路市定員適正化計画（2016年度（平成28年度）～2020年度（令和2年度））に基づき、下水道事業においても事業の効率化を推進する中で、業務体制の見直しや民間事業者の技術を活用する委託化を進め、2005年（平成17年）の市町村合併以降、職員数を10名削減してきました。

一方では、災害への備えとして、また老朽化が著しい施設・管路を多く抱える中、将来にわたって下水道サービスを安定的に提供していくため、老朽化施設の更新や耐震化といった強靱化を進めていく必要があります。そのためには下水道施設の事業運営に関する知識・経験を有する技術職を継続的に確保・育成していくことが不可欠であるとともに、事業実施にあたり人材の確保が必要となることから、今後も適正な人員配置に努めていきます。

4 経営の基本方針と主要事業

下水道事業の現状と課題を踏まえた上で、目指すべき方向を見定め、下水道事業の将来像やその実現のための施策を明確にするため、2022年度（令和4年度）から10か年で取り組む施策等をまとめた「釧路市下水道ビジョン」を策定しています。

この釧路市下水道経営計画は、ビジョンの施策体系に沿った実施計画として主要事業をまとめ、事業ごとに施策の目標に応じた目指すべき指標を設定し、施策目標の実現を目指します。

釧路市下水道事業の基本理念

『次世代へつなぐ持続可能な水循環をささえる下水道』

基本理念を実現するための施策目標

施策目標1 下水道施設の適正な維持管理

既存ストックを適切に維持管理し、施設の長寿命化とライフサイクルコストの視点にたった計画的な改築を目指します。

施策目標2 安全で快適な水環境の保全

汚水の効率的な普及を進め公衆衛生の安全を目指します。また、市民生活や自然環境の変化にも対応し放流水質の安定確保を目指します。

施策目標3 雨に負けない下水道

大雨にも負けない、雨水システムの構築を目指します。

施策目標4 災害に負けない下水道

被災時にも最低限の機能を確保できるよう、災害に強い下水道システムを目指します。

施策目標5 下水道事業の健全な経営

健全な経営に努め、持続可能な下水道事業を目指します。また、人口減少や将来施策に配慮し長期的視点に立った下水道経営を目指します。

施策目標6 資源循環の推進、施設の有効活用

循環型社会の構築への寄与と下水道の活用による付加価値の向上を目指します。

表 4 ビジョンの施策体系と主要事業

ビジョンの 施策目標 (6施策)	具体的な施策		経営計画の主要事業
1 下水道施設の 適正な維持管理	(1) 安定した下水道施設の維持管理	ア 下水道施設の更新	老朽化施設の更新
	(2) 下水道管路が主因となる事故を防止	ア 老朽管調査	老朽管の調査
		イ 管路の異常箇所対策	異常箇所の修繕
		ウ 不明水対策	浸入水カメラ調査 緊急降雨時水替・点検
(3) 効率的な維持管理情報の運用	ア 台帳システムの活用	上下水道管路情報システム(下水道)の活用	
2 安全な水環境の適	(1) 衛生的で快適な暮らしの確保	ア 汚水整備/私道整備	汚水管の整備
	(2) 下水道の普及及び水洗化の促進	ア 普及及び水洗化の促進	普及及び水洗化の促進
3 雨水に負	(1) 円滑な雨水排水	ア 雨水管の整備	雨水管の整備
4 災害に水道	(1) 災害対策の推進	ア 施設の地震、津波、浸水対策	地震、津波、浸水対策
		イ ソフト対策の強化	災害時等危機管理対策
5 下水道事業の健全な経営	(1) 経営の効率化・健全化	ア 事業運営の効率化	施設管理業務の効率化
		イ 財政基盤の強化	未収金対策
		ウ 組織機構の見直し及び職員定数の適正化	組織機構の見直し及び職員定数の適正化
	(2) 人材の育成と下水道技術の継承	ア 人材の育成及び技術の継承	人材の育成及び技術の継承
(3) 情報の提供・共有	ア 情報公開	情報公開の促進	
	イ 広報活動	広報活動の推進	
6 施設資源の循環の活用、	(1) 下水道資源の有効活用	ア 下水道汚泥の緑農地還元	下水道汚泥の緑農地還元
	(2) 下水道資源の有効活用	ア 消化ガスの有効活用	消化ガスの有効活用
	(3) 省エネルギー・新エネルギー設備の検討	ア 省エネ・新エネの検討	省エネルギー機器の導入

目標となる指標	指標算出式	現状値 (令和3年度)	最終値 (令和13年度)	概算見積額 (百万円)
老朽管の更新済延長		5.7km	20.7km	21,412 ※1
主要な設備機器の整備率（処理場・ポンプ場）	[整備済設備機器数 /主要な設備機器数]	39.7%	68.0%	
老朽管の調査済延長		79km	459km	1,533
異常箇所の修繕実施		推進	推進	4,239
公共下水道不明水調査率		14.3%	22.5%	164
緊急降雨時水替・点検の実施		推進	推進	66
管路情報システムの活用	[不明水調査済面積 /事業計画区域面積]	推進	推進	34
汚水管整備の実施		推進	推進	178
下水道普及・水洗化の促進		継続	継続	2
雨水面積整備率	[整備面積(雨水) /計画面積(雨水)]	62.0%	62.2%	1,691
耐震補強及び施設浸水対策の実施		推進	推進	1,814
危機管理マニュアル等の改訂		継続	継続	—
施設維持管理委託事業者との災害訓練		実施	実施	—
民間事業者の活用		継続	継続	11,464
最終収納率		99.1%	99.6%	—
職員定数の適正化		推進	推進	—
各種研修会への参加促進及び研修体制の充実		推進	推進	28
事業運営状況の公開		推進	推進	—
個人情報の適正な管理		徹底	徹底	—
広報活動の推進		推進	推進	10
下水道汚泥の活用率	[下水道汚泥活用量 /下水道汚泥発生量]	100%	100%	692
消化ガス利用率	[消化ガス消費量 /消化ガス発生量]	100%	100%	—
使用電力量		12,718千kwh	10,781千kwh	2,744 ※1 (再掲)

施策目標 1 下水道施設の適正な維持管理

既存ストックを適切に維持管理し、施設の長寿命化とライフサイクルコストの視点にたった計画的な改築を目指します。

(1) 安定した下水道施設の維持管理

ア 下水道施設の更新

事業名		概算見積額（百万円）		
老朽化施設の更新		21,412 ※1		
取り組む事業の内容				
老朽化した下水道施設について、点検・調査結果や施設の重要度により、優先度の高いものから計画的に長寿命化や更新を実施します。				
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）	
老朽管の更新済延長	5.7km	13.2km	20.7km	
主要な設備機器の整備率 （処理場・ポンプ場） [整備済設備機器数 /主要な設備機器数]	39.7%	56.2%	68.0%	

※1 p.23 「省エネルギー機器の導入」の2,744百万円を含む。

(2) 下水道管路が主因となる事故を防止

ア 老朽管調査

事業名		概算見積額（百万円）		
老朽管の調査		1,533		
取り組む事業の内容				
老朽化した管路について、腐食やクラックなど劣化、破損状況を把握するため、テレビカメラなどによる点検・調査を計画的に実施します。				
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）	
老朽管の調査済延長	79km	239km	459km	

イ 管路の異常箇所対策

事業名		概算見積額（百万円）		
異常箇所の修繕		4,239		
取り組む事業の内容				
下水道機能に支障となる管路の滞水、腐食、逆勾配などの異常箇所について、施設の修繕や更新などの対策を実施します。				
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）	
異常箇所の修繕実施	推進	推進	推進	

ウ 不明水対策

事業名		概算見積額（百万円）	
浸入水カメラ調査		164	
取り組む事業の内容			
<p>降雨時に汚水管渠内の水位上昇に伴う生活排水阻害の防止のため、カメラ調査により原因の調査と対策の計画を立てます。</p> <p>今後5か年では、下水道事業計画区域（4,447ha）内の昭和地区の調査を実施します。</p>			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
公共下水道不明水調査率 [不明水調査済面積 /事業計画区域面積]	14.3%	18.5%	22.5%

事業名		概算見積額（百万円）	
緊急降雨時水替・点検		66	
取り組む事業の内容			
<p>異常降雨時に汚水管渠内水位上昇がみられる文苑・芦野地区及び昭和地区において、水洗不能を防止すべく水位上昇したマンホールから隣接する地区の水位の低いマンホールへ、水替ポンプを通じ排水することで水洗不能を回避します。</p>			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
緊急降雨時水替・点検の実施	推進	推進	推進

(3) 効率的な維持管理情報の運用

ア 台帳システムの活用

事業名		概算見積額（百万円）	
上下水道管路情報システム(下水道)の活用		34	
取り組む事業の内容			
<p>管路情報システムに登録した施設情報の更新や修繕履歴情報を蓄積し、システムを活用した効率的かつ効果的な施設整備と維持管理を進めます。</p>			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
管路情報システムの活用	推進	推進	推進

施策目標 2 安全で快適な水環境の保全

下水道の効率的な普及を進め公衆衛生の安全を目指します。また、市民生活や自然環境の変化にも対応し放流水質の安定確保を目指します。

(1) 衛生的で快適な暮らしの確保

ア 汚水整備/私道整備

事業名		概算見積額（百万円）	
汚水管の整備		178	
取り組む事業の内容			
汚水管路の整備について、建物の建設等に合わせて整備を実施します。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
汚水管整備の実施	推進	推進	推進

(2) 下水道の普及及び水洗化の促進

ア 普及及び水洗化の促進

事業名		概算見積額（百万円）	
普及及び水洗化の促進		2	
取り組む事業の内容			
下水道未接続家屋及び未水洗化家屋所有者に対し、下水道の意義と水洗化改造にあたっての融資あっせん制度及び補助金交付制度を周知するパンフレットを郵送し、早期接続促進に努めます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
下水道普及・水洗化の促進	継続	継続	継続

施策目標3 雨に負けない下水道

大雨にも負けない、雨水システムの構築を目指します。

(1) 円滑な雨水排水

ア 雨水管の整備

事業名	概算見積額（百万円）		
雨水管の整備	1,691		
取り組む事業の内容			
雨水管路の整備について、地域ごとの状況を踏まえた整備を段階的に実施します。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
雨水面積整備率 [整備面積(雨水) /計画面積(雨水)]	62.0%	62.1%	62.2%

施策目標 4 災害に負けない下水道

被災時にも最低限の機能を確保できるよう、災害に強い下水道システムを目指します。

(1) 災害対策の推進

ア 施設の地震、津波、浸水対策

事業名		概算見積額（百万円）	
地震、津波、浸水対策		1,814	
取り組む事業の内容			
下水終末処理場や中継ポンプ場等について、各施設の重要度等による優先順位を決定し、地震、津波、浸水対策等を随時実施します。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
耐震補強及び施設浸水対策の実施	推進	推進	推進

イ ソフト対策の強化

事業名		概算見積額（百万円）	
災害時等危機管理対策		—	
取り組む事業の内容			
ライフラインの一端を担う下水道事業において、有事の際にも可能な限り冷静かつ的確な対応を取ることができるよう、業務継続計画（BCP）や事象別の各種災害対応マニュアルを整備・更新するとともに、施設維持管理委託事業者との災害訓練を実施し、危機管理の強化に努めます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
危機管理マニュアル等の改訂	継続	継続	継続
施設維持管理委託事業者との災害訓練	実施	実施	実施

施策目標 5 下水道事業の健全な経営

健全な経営に努め、持続可能な下水道事業を目指します。また、人口減少や将来施策に配慮し長期的視点に立った下水道経営を目指します。

(1) 経営の効率化・健全化

ア 事業運営の効率化

事業名	概算見積額（百万円）		
施設管理業務の効率化	11,464		
取り組む事業の内容			
下水処理場等の運転管理について包括的民間委託を導入し、効率的な管理運営による経費の節減に努めています。引き続き適切に維持管理を行いながら、民間事業者の知見を活用することなどにより、施設管理業務の効率化を図ります。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
民間事業者の活用	継続	継続	継続

イ 財源基盤の強化

事業名	概算見積額（百万円）		
未収金対策	—		
取り組む事業の内容			
収納、未収金対策業務につきましては、2010年度（平成22年度）から専門性を備えた民間事業者に包括委託し、また、2018年度（平成30年度）からは市外転出者などの滞納整理困難案件について専門の法律事務所に債権回収を委託しております。上下水道事業の健全経営及び負担の公平の観点から、引き続き早期収納対策、累積滞納者対策等の未収金対策を行い、最終収納率の維持・向上に努めます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
最終収納率	99.1%	99.6%	99.6%

ウ 組織機構の見直し及び職員定数の適正化

事業名	概算見積額（百万円）		
組織機構の見直し及び職員定数の適正化	—		
取り組む事業の内容			
釧路市定員管理計画に基づき、より効果的な業務執行体制を構築するために、国の動向を注視するとともに、上下水道部の現状を毎年把握し、必要な職員数の配置と時代に即した組織体制の検討と見直しを図ります。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
職員定数の適正化	推進	推進	推進

(2) 人材の育成と下水道技術の継承

ア 人材の育成及び技術継承

事業名	概算見積額（百万円）		
人材の育成及び技術の継承	28		
取り組む事業の内容			
将来にわたって安全で安心な下水道事業を運営していくためには、職員の資質の向上を図る「人材育成」と知識や技術を次世代へ継承する「技術継承」が必要不可欠であり、職場内外における研修の機会を確保し、推進していきます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
各種研修会への参加促進及び研修体制の充実	推進	推進	推進

(3) 情報の提供・共有

ア 情報公開

事業名	概算見積額（百万円）		
情報公開の促進	—		
取り組む事業の内容			
個人情報等の情報資産を適正に取り扱うとともに、ホームページや広報紙など、様々な媒体を活用し、事業運営状況や経営比較分析表などの公開に努めます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
事業運営状況の公開	推進	推進	推進
個人情報の適正な管理	徹底	徹底	徹底

イ 広報活動

事業名	概算見積額（百万円）		
広報活動の推進	10		
取り組む事業の内容			
「広報くしろ」や上下水道部広報誌「こんにちは くしろの上下水道」、ホームページなどを活用した情報発信などとともに、古川下水終末処理場の一般公開などを通じて、市民の理解と信頼を深めます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
広報活動の推進	推進	推進	推進

施策目標 6 資源循環の推進、施設の有効活用

循環型社会の構築への寄与と下水道の活用による付加価値の向上を目指します。

(1) 下水道資源の有効活用

ア 下水道汚泥の緑農地還元

事業名		概算見積額（百万円）	
下水道汚泥の緑農地還元		692	
取り組む事業の内容			
循環型社会構築のため、下水道汚泥のコンポスト化等による緑農地での有効活用を継続します。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
下水道汚泥の活用率 [下水道汚泥活用量 /下水道汚泥発生量]	100%	100%	100%

(2) 下水道エネルギーの有効活用

ア 消化ガスの有効活用

事業名		概算見積額（百万円）	
消化ガスの有効活用		—	
取り組む事業の内容			
古川処理場及び大楽毛処理場から発生する消化ガスを、エネルギーとして有効活用を図ることで、地球温暖化防止に寄与します。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
消化ガス活用率 [消化ガス消費量 /消化ガス発生量]	100%	100%	100%

(3) 省エネルギー・新エネルギー設備の検討

ア 省エネ・新エネの検討

事業名		概算見積額（百万円）	
省エネルギー機器の導入		2,744 ※1（再掲）	
取り組む事業の内容			
設備等更新時にエネルギー効率の高い機器を導入することや、設備等の最適化などを図りながら効率的な運転管理を進め、使用電力量の抑制に努めます。			
目標となる指標	現状値（令和3年度）	中間値（令和8年度）	最終値（令和13年度）
使用電力量	12,718千kwh	11,099千kwh	10,781千kwh

※1（再掲） p.15 「老朽化施設の更新」の21,412百万円の内数。

5 財政収支見通し

普及向上を目指した拡張の時代から維持管理の時代に向け、サービスを享受する市民の側に立った持続可能な下水道事業の推進を実現するため、より一層、安全・安心・快適な生活環境の創造を最優先し、人口減少・少子高齢化社会に対応した健全な下水道事業経営を目指します。

下水道ビジョンに掲げた施策の実現を目指しつつ、経営の健全化との両立を図るため、財政運営の基本的な考え方を踏まえ、今後 10 か年の財政収支を見込みました。(29 ページ別紙 2「投資・財政計画(収支計画)」のとおり。)

5.1 収支計画の策定に当たっての説明

下水道事業は、使用料収入をもって経営を行う独立採算制を基本原則としながら、住民生活に身近な社会資本を整備し、サービスを提供する役割を果たしており、将来にわたりその目的を増進していくことを目標としています。

今後、基幹施設が順次更新期を迎え、施設機能維持に大幅な財政需要が見込まれることから、人口減少と少子高齢化が進む中で、将来世代への過重な負担とならないよう、長期的視野に立った経営基盤の強化と効率的な経営を推進していきます。

経営にあたっては、適切に財源を見込むとともに、経費の効率化に最大限留意しながら、資金不足が生じないことを大前提の目標として運営していきます。

(1) 収支計画のうち投資についての説明

ア 管路

- ・浸水予想区域等における雨水管整備や「釧路市下水道ストックマネジメント計画」に基づく老朽管の改築・更新などの整備・更新費用を見込んでいます。
- ・今後 50 年を経過する老朽管が急増することから、健全度を把握するための老朽管調査費用を見込んでいます。

イ 処理場、ポンプ場等

- ・「釧路市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、老朽化した施設の改築・更新費用を見込んでいます。
- ・機器の延命化やダウンサイジング等の検討を行いコスト圧縮に努めながら、将来を見据え重要度、優先度などを総合的に判断し、更新事業を実施していきます。

(2) 収支計画のうち財源についての説明

ア 下水道使用料

- ・一般家庭の使用料は、一人当たりの平均使用料に処理区域内人口を乗じ、事業者の使用料は、過去の平均増減率により試算しています。

イ 企業債

- ・下水道事業債は、その元利償還金に一部地方交付税も措置されることから、建設改良費のうち対象経費については財源として企業債発行を見込んでいます。

ウ 一般会計繰入金

- ・雨水公費、汚水私費の経費負担原則に基づき、繰入基準に係る経費等を計上しています。

(3) 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

ア 維持管理費

- ・施設の延命化を図るため、必要な修繕費を計上しています。

イ 支払利息

- ・過去に発行した建設企業債の償還が順次終了することから減少していきます。

5.2 収支計画に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

(1) 今後の投資についての考え方・検討状況

ア 投資の平準化に関する事項

- ・財政負担を短期間に集中させないように、ストックマネジメント計画等に基づき、投資の平準化を図っていきます。

(2) 今後の財源についての検討状況等

ア 下水道使用料の見直しに関する事項

- ・将来にわたり健全な経営を続けるため、4年ごとに経営や使用料のあり方を上下水道事業審議会に諮問し、事業運営について審議していきます。

6 施策の実現に向けて

6.1 施策の実現と進捗管理（事後検証、改定等に関する事項）

(1) 施策の実現

下水道ビジョンは、2022年度（令和4年度）から2031年度（令和13年度）までの10年間の本市下水道事業の今後目指すべき方向性を定めたものです。また経営計画は、ビジョンの施策体系に沿った実施計画として具体的な事業をまとめたものです。

下水道ビジョン及び経営計画の施策の推進においては、PDCAという一連のマネジメントサイクルを確立することで、効率的・効果的な事業の実施を図っていきます。

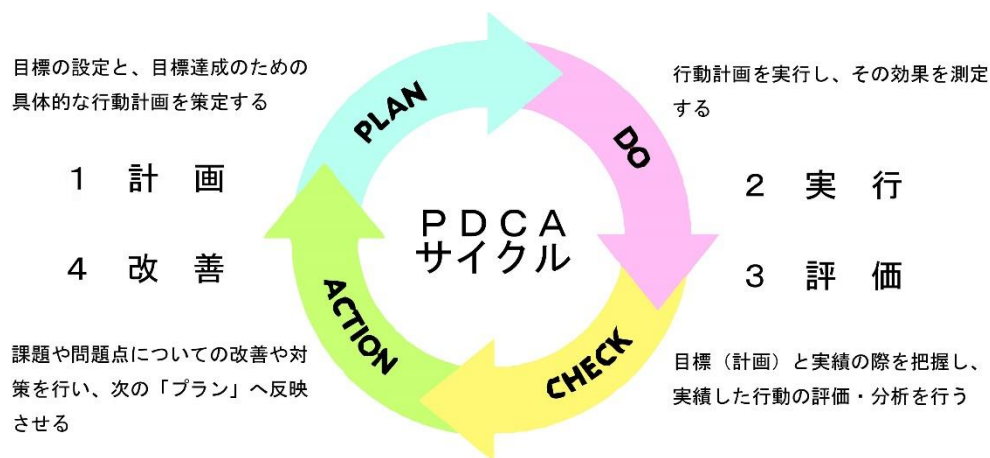


図 5 PDCAによるマネジメントサイクル

(2) 進捗管理

本経営計画は、必要に応じて事業の進捗状況を確認し、実績評価及び課題整理を行い見直しを行っていきます。

(3) 進捗状況の公表

進捗状況については、目標の達成度や施策の実施内容等をホームページなどにより公表するとともに、評価・分析を行い施策に反映していきます。

経営比較分析表（2020 年度（令和 2 年度）決算）

北海道 釧路市

業務名	業種名	管理者の情報	1 か月 20m ³ 当たり家庭料金 (円)
法適用	下水道事業	自治体職員	4,502

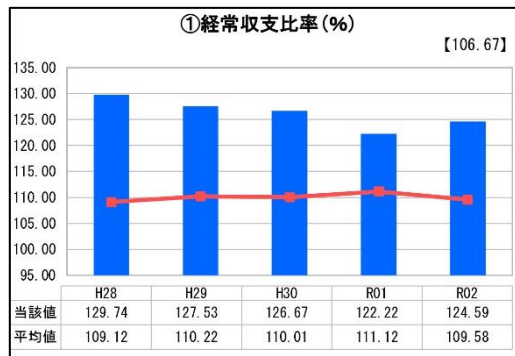
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
165,667	1,363.29	121.52

グラフ凡例
 ■ 当該団体値（釧路市）
 — 類似団体平均値（平均値）
 【】 令和 2 年度全国平均

経営の健全性と施設の更新のバランスが保たれているかを把握するため、地方公営企業決算状況調査（決算統計）における、2020 年度（令和 2 年度）決算状況に基づく経営比較分析より以下の 3 指数の分析結果を取り上げます。

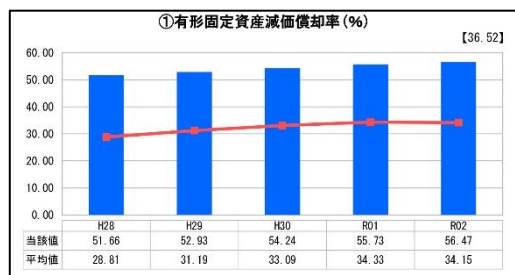
■ 公共下水道

事業名	類似団体区分	資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)
公共下水道	Ad	-	66.83	95.59
有収率 (%)	処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)	
65.89	157,045	41.78	3,758.86	



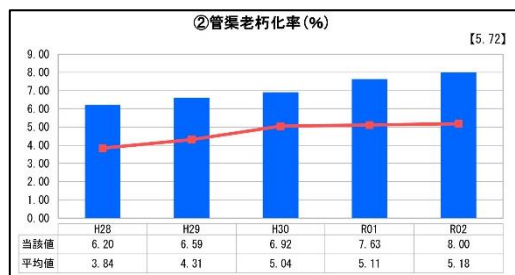
平均値及び 100% を上回っており、経常収支が黒字であることを表している。

【算出式】 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$



平均値を上回っており、保有資産の更新が類似団体よりも進んでいない状況にある。

【算出式】 $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$

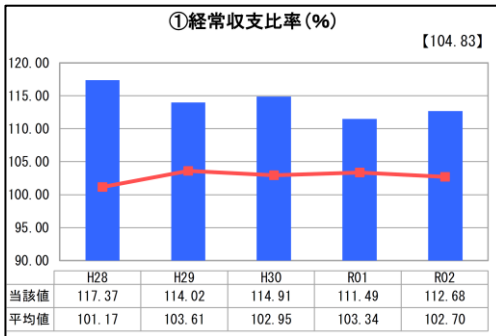


平均値を上回っており、法定耐用年数を超えた管渠延長の割合が類似団体よりも高い状況にある。

【算出式】 $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$

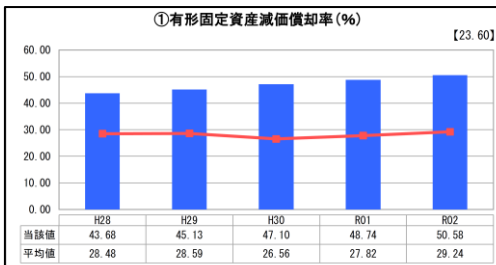
■特定環境保全公共下水道

事業名	類似団体区分	資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)
特定環境保全公共下水道	D1	-	72.85	2.95
有収率(%)	処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)	
24.47	4,842	3.76	1,287.77	



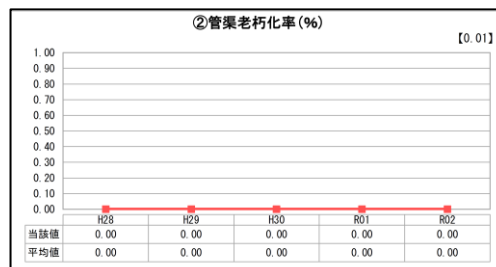
平均値及び100%を上回っており、経常収支が黒字であることを表している。

【算出式】 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$



平均値を上回っており、保有資産の更新が類似団体よりも進んでいない状況にある。

【算出式】 $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$



法定耐用年数を超えた管渠がないため0%となっている。

【算出式】 $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$

投資・財政収支（収支計画）

科目		年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	(2025年度)	
			予算	予算	推計	推計	推計	
収益的収入	営業収益		4,758,830	4,930,808	4,859,377	4,872,155	4,856,383	
	下水道使用料		3,444,481	3,371,585	3,347,386	3,338,745	3,296,406	
	その他営業収益		1,314,349	1,559,223	1,511,991	1,533,410	1,559,977	
	営業外収益		2,394,091	2,134,523	2,147,140	2,122,050	2,126,695	
	補助金		247,730	32,999	35,353	35,318	35,286	
	長期前受金戻入		1,710,495	1,701,200	1,728,073	1,725,980	1,744,415	
	資本費繰入収益		368,776	344,405	324,196	291,400	270,919	
	その他営業外収益		67,090	55,919	59,518	69,352	76,075	
	計	①	7,152,921	7,065,331	7,006,517	6,994,205	6,983,078	
	支出	営業費用		5,723,443	5,836,509	5,986,690	6,066,048	6,144,052
		職員給与費 (うち退職給付費)		233,552 (0)	233,565 (5,959)	287,069 (53,294)	287,069 (53,294)	287,069 (53,294)
		維持管理費		2,063,504	2,164,385	2,176,238	2,192,707	2,235,218
		減価償却費		3,372,362	3,391,726	3,455,583	3,499,122	3,521,065
		資産減耗費		54,025	46,833	67,800	87,150	100,700
営業外費用			410,944	350,756	299,114	264,939	236,948	
支払利息			339,594	286,568	247,767	213,083	183,965	
その他営業外費用			71,350	64,188	51,347	51,856	52,983	
特別損失			0	334,591	0	0	0	
計		②	6,134,387	6,521,856	6,285,804	6,330,987	6,381,000	
差引(①-②)	③	1,018,534	543,475	720,713	663,218	602,078		
繰越利益剰余金又は累積欠損金(△)			2,376,689	2,920,164	3,640,877	4,304,095	4,906,173	
資本的収入	企業債		1,754,700	1,721,400	1,134,200	1,362,000	1,618,000	
	他会計補助金		16,870	14,670	21,400	23,000	10,800	
	国(都道府県)補助金		1,009,055	1,273,600	961,400	1,205,700	1,284,500	
	工事負担金		7,210	5,196	3,365	793	349	
	出資金		0	0	0	0	0	
	計	④	2,787,835	3,014,866	2,120,365	2,591,493	2,913,649	
	支出	建設改良費		2,724,389	3,214,050	2,332,862	2,786,042	3,098,842
		企業債償還金		2,278,554	2,226,615	2,309,942	2,309,015	2,276,046
		国庫補助金返還金		4,302	6,000	4,630	4,630	4,630
	計	⑤	5,007,245	5,446,665	4,647,434	5,099,687	5,379,518	
差引(④-⑤)	⑥	△ 2,219,410	△ 2,431,799	△ 2,527,069	△ 2,508,194	△ 2,465,869		
減価償却費、資産減耗費			⑦	3,426,387	3,438,559	3,523,383	3,586,272	3,621,765
収益的支出の財源に充てる企業債			⑧	16,400	0	0	0	0
引当金増減			⑨	△ 683	319,714	0	0	0
長期前受金戻入(△)			⑩	△ 1,710,495	△ 1,701,200	△ 1,728,073	△ 1,725,980	△ 1,744,415
損益勘定留保資金(⑦+⑧+⑨+⑩)			⑪	1,731,609	2,057,073	1,795,310	1,860,292	1,877,350
資本的収支調整額			⑫	91,456	124,626	122,427	141,504	163,927
単年度収支剰余額・不足額(△)(③+⑥+⑪+⑫)				622,189	293,375	111,381	156,820	177,486
資金剰余額・不足額(△)				564,403	857,778	969,159	1,125,979	1,303,465
内訳	退職手当引当金		0	320,780	320,780	320,780	320,780	
	資産維持費相当額積立金		0	0	0	0	0	
	実質的な資金剰余・不足額(△)		564,403	536,998	648,379	805,199	982,685	
企業債残高				25,239,036	24,733,821	23,558,079	22,611,064	21,953,018

(単位:千円)

令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)	令和 13 年度 (2031 年度)
推 計	推 計	推 計	推 計	推 計	推 計
4,853,019	4,794,937	4,748,823	4,736,787	4,688,643	4,628,968
3,252,595	3,209,005	3,165,665	3,122,525	3,079,597	3,035,940
1,600,424	1,585,932	1,583,158	1,614,262	1,609,046	1,593,028
2,143,131	2,144,093	2,130,940	2,081,230	2,071,271	2,063,720
35,257	35,231	35,208	35,187	35,168	35,168
1,766,941	1,786,276	1,789,366	1,758,846	1,766,942	1,780,274
261,977	236,648	211,421	187,274	163,499	141,131
78,956	85,938	94,945	99,923	105,662	107,147
6,996,150	6,939,030	6,879,763	6,818,017	6,759,914	6,692,688
6,221,857	6,252,978	6,343,025	6,325,837	6,348,255	6,401,834
287,069	287,069	287,069	287,069	287,069	287,069
(53,294)	(53,294)	(53,294)	(53,294)	(53,294)	(53,294)
2,275,310	2,286,800	2,297,470	2,307,592	2,331,342	2,351,326
3,565,428	3,586,309	3,643,286	3,652,976	3,649,744	3,681,689
94,050	92,800	115,200	78,200	80,100	81,750
216,634	197,971	182,902	170,119	158,058	148,104
162,779	143,832	128,525	115,398	102,798	92,443
53,855	54,139	54,377	54,721	55,260	55,661
0	0	0	0	0	0
6,438,491	6,450,949	6,525,927	6,495,956	6,506,313	6,549,938
557,659	488,081	353,836	322,061	253,601	142,750
5,463,832	5,951,913	6,305,749	6,627,810	6,881,411	7,024,161
1,442,600	1,500,700	1,721,400	1,322,700	1,288,800	1,264,700
18,500	11,800	13,300	22,500	15,500	24,100
1,157,300	1,175,000	1,467,300	1,027,200	996,300	972,800
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
2,618,400	2,687,500	3,202,000	2,372,400	2,300,600	2,261,600
2,824,106	2,927,265	3,435,066	2,609,776	2,548,396	2,496,585
2,346,666	2,266,407	2,229,433	2,291,672	2,218,809	2,136,215
4,630	4,630	4,630	4,630	4,630	4,630
5,175,402	5,198,302	5,669,129	4,906,078	4,771,835	4,637,430
△ 2,557,002	△ 2,510,802	△ 2,467,129	△ 2,533,678	△ 2,471,235	△ 2,375,830
3,659,478	3,679,109	3,758,486	3,731,176	3,729,844	3,763,439
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
△ 1,766,941	△ 1,786,276	△ 1,789,366	△ 1,758,846	△ 1,766,942	△ 1,780,274
1,892,537	1,892,833	1,969,120	1,972,330	1,962,902	1,983,165
149,846	158,224	177,679	141,825	139,691	136,335
43,040	28,336	33,506	△ 97,462	△ 115,041	△ 113,580
1,346,505	1,374,841	1,408,347	1,310,885	1,195,844	1,082,264
320,780	320,780	320,780	320,780	320,780	320,780
0	0	0	0	0	0
1,025,725	1,054,061	1,087,567	990,105	875,064	761,484
21,048,952	20,283,245	19,775,212	18,806,240	17,876,231	17,004,716

釧路市下水道経営計画

発行：令和4年3月

釧路市上下水道部 〒085-0841 釧路市南大通2丁目1番121号

URL : <http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/>

経営企画課 TEL : 0154-43-2164